

■ 第21回 小和田地区防災訓練を実施

今回の防災訓練は、「避難所開設・資機材取り扱い訓練」として、市のマニュアル通りに企画・立案し実行してみました。結果は各人により評価はバラバラですが、多くの問題点が浮き彫りにされたという点では一致しているでしょう。

訓練そのものとしての評価は、不備が多かったため低いものであっても、マニュアルを「絵に描いた餅」とせず、実際の被災時に役立つものに仕立て上げるためのステップと見れば、満足のいく結果であったと思います。

主催：小和田地区自治会連合会



図-1：8時30分 開会 挨拶と訓練時の注意事項説明



図-2：学校への進入・施設の安全確認



■ 避難所開設・資機材取り扱い訓練として実施

2022年10月16日 全体スケジュール

8時30分 開会挨拶と訓練時の注意事項説明

8時40分 避難所開設訓練

- ① 学校への進入
- ② 施設の安全確認・避難者誘導
- ③ 避難所開設
- ④ 「初動期避難所運営本部」の設置
- ⑤ 避難所の受付・名簿作成
- ⑥ 負傷者・要配慮者対応
- ⑦ 報告と情報提供・被災状況整理と情報収集
- ⑧ 会議の開催

10時50分 資機材取り扱い訓練

11時40分 訓練まとめ

12時00分～12時30分 解散・撤収（片付け・清掃）



図-3：施設の安全確認 配備職員による説明



図-4：待機する避難者



図-5：校庭で待機する受付・名簿班

小和田地区自治会連合会

■ 施設の安全確認

防災訓練は、各役割毎に進行した関係で、他の役割の方々の待ち時間が長くなった。学校進入から安全確認の段階は、配備職員と一部の役割方のみが動くのみで、他の役割の方々が長時間待機させられた。これは実際の避難時にも起きうることで、待機場所への工夫が求められた。

例えば、待機用にテントとブルーシートの設営等。



図-6：受付・名簿班



図-7：救護班

■受付・名簿班 ■救護班

受付場所に校内の配置図が無く、避難所が受付後どの場所に移動するのか良く判らない方が多かった。

避難者への検温準備が無く、また感染疑い者への対応や、隔離スペースがしっかりと掲示されていなかった。

訓練時、救護班で負傷者を救護されていた方がおり、賞賛されていた。

■受付 ■情報広報班

自治会毎に受付を行うようになっていたが、用紙を十分に準備していなかったため、対応が出来なかった。

避難した方を集計する際に、赤松自治会と赤松町自治会が混同されて集計されていた。配備職員は対象自治会のことをよく知っておく必要がある。



図-8：情報広報班



図-9：情報広報班

■資機材取り扱い訓練

体育館の資機材倉庫とその通路が狭く、取り出す作業が困難であった。

資機材取り出し後、スケジュール以前に開梱した結果、組み立てが始まってしまった。他の場所では訓練中であつたため、全員が集まって取り扱い訓練を行えなかった。また、早く片付け始めたため資機材に触れない人も出た。スケジュールの遵守が望まれた。



図-10：資機材取り扱い訓練



図-11：資機材取り扱い訓練



図-12：参加者全員で集合写真

2022年11月9日18時から、小和田コミセンで防災訓練反省会を実施しました。各自治会長からのコメントを抜粋して紹介します。

① 全体の進行状況が判らなかった、校内放送等活用。役割毎に分かれたため、全体が判り難い。夜間の想定も必要では。

② 今回の結果を踏まえて、避難所マニュアルを改善。各役割毎のマニュアルが必要では。

③ 今回は駄目出しの訓練だった。訓練は実災害を想定し、防災関係者以外で市主導で行うべき。

④ ハンドマイクの準備は必須。配備職員/学校職員の訓練を先にやるべき。

⑤ 真夏の避難時のスムーズな退避や、収容人員をオーバーした場合の想定が必要。

⑥ 待ち時間が長いので、待機（休憩）場所を決めておく必要がある。